

気候変動の影響および適応策についてのアンケート結果

県では、従来から実施している温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」に加え、平成 27 年度から新たに気候変動の影響に対処していくための「適応策」を検討することとしています。

皆様の「気候変動の影響」や「適応策」に関する意識、考え方等を把握し、適応策の検討の参考とするため、アンケートを実施しました。

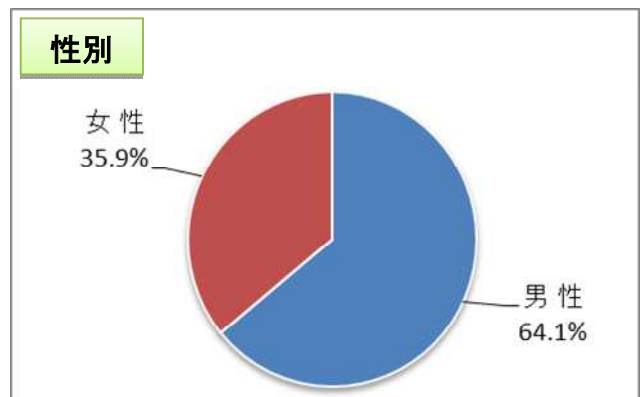
- ★調査時期：平成 27 年 5 月
- ★対象者：県政モニター398 人
- ★回答数：359 人（回収率 90.2%）
- ★担当課：温暖化対策課

(※四捨五入により割合の合計が 100%にならない場合があります。)

【回答の属性】

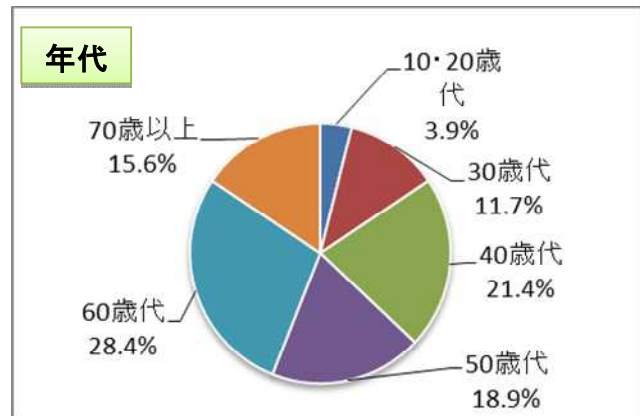
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	230	64.1%
女性	129	35.9%
合計	359	100.0%



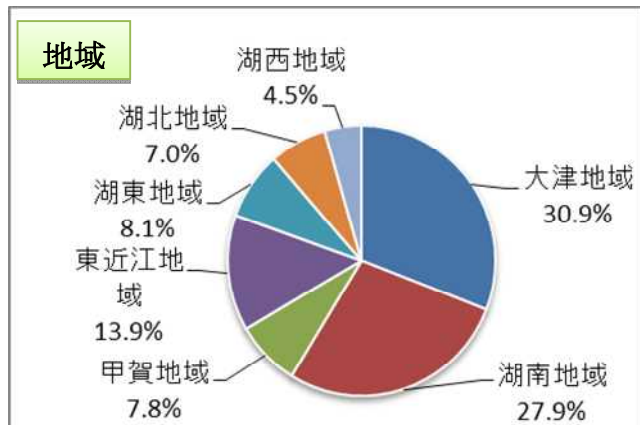
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20 歳代	14	3.9%
30 歳代	42	11.7%
40 歳代	77	21.4%
50 歳代	68	18.9%
60 歳代	102	28.4%
70 歳以上	56	15.6%
合計	359	100.0%



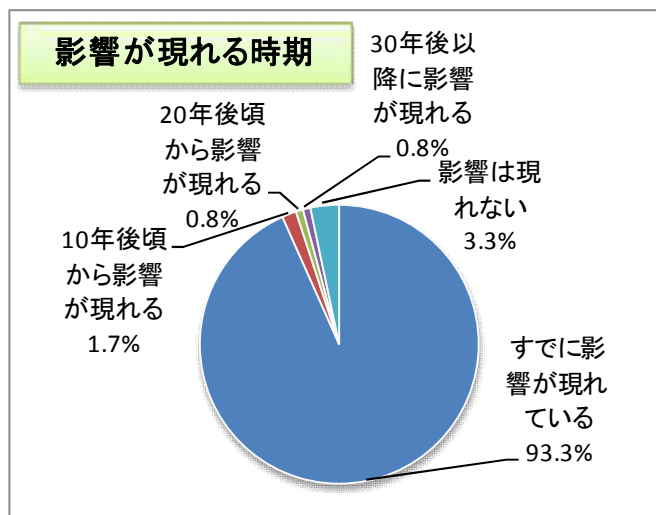
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	111	30.9%
湖南地域	100	27.9%
甲賀地域	28	7.8%
東近江地域	50	13.9%
湖東地域	29	8.1%
湖北地域	25	7.0%
湖西地域	16	4.5%
合計	359	100.0%



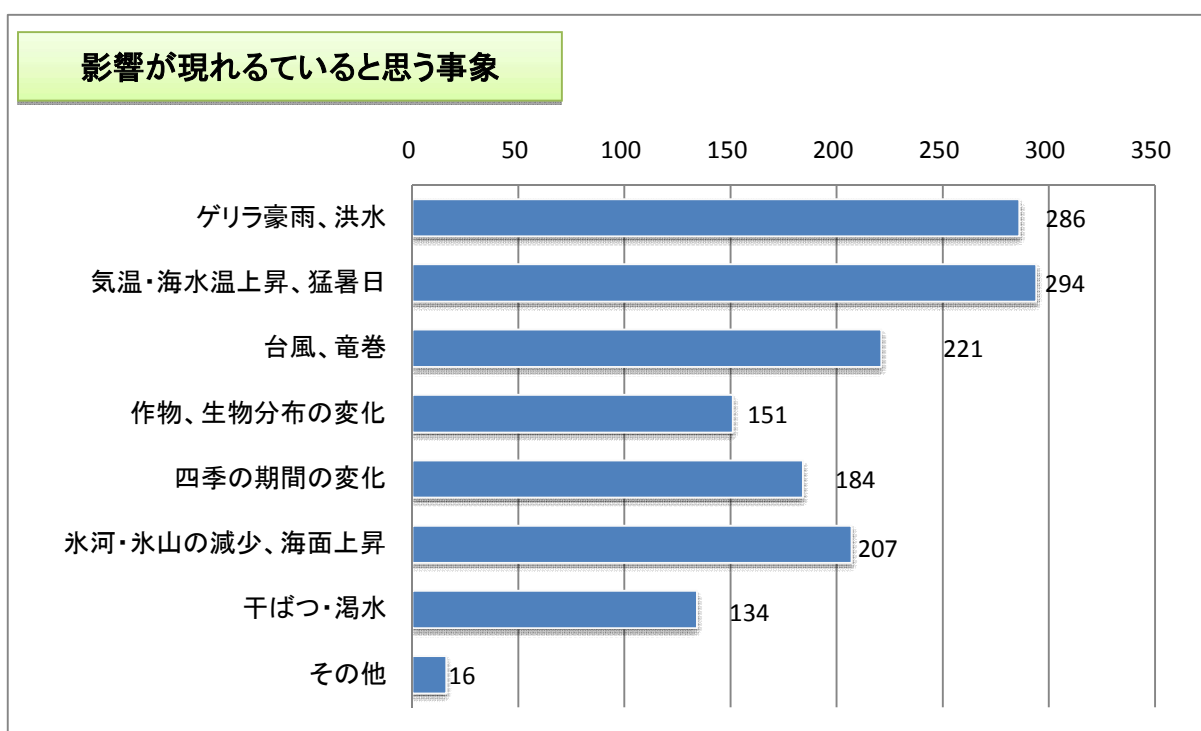
【問1】 地球温暖化に伴う影響(気候変動等)はいつ頃から現れるとお考えですか。(回答チェックは1つだけ。n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
すでに影響が現れている	335	93.3%
10年後頃から影響が現れる	6	1.7%
20年後頃から影響が現れる	3	0.8%
30年後以降に影響が現れる	3	0.8%
影響は現れない	12	3.3%
合計	359	100.0%



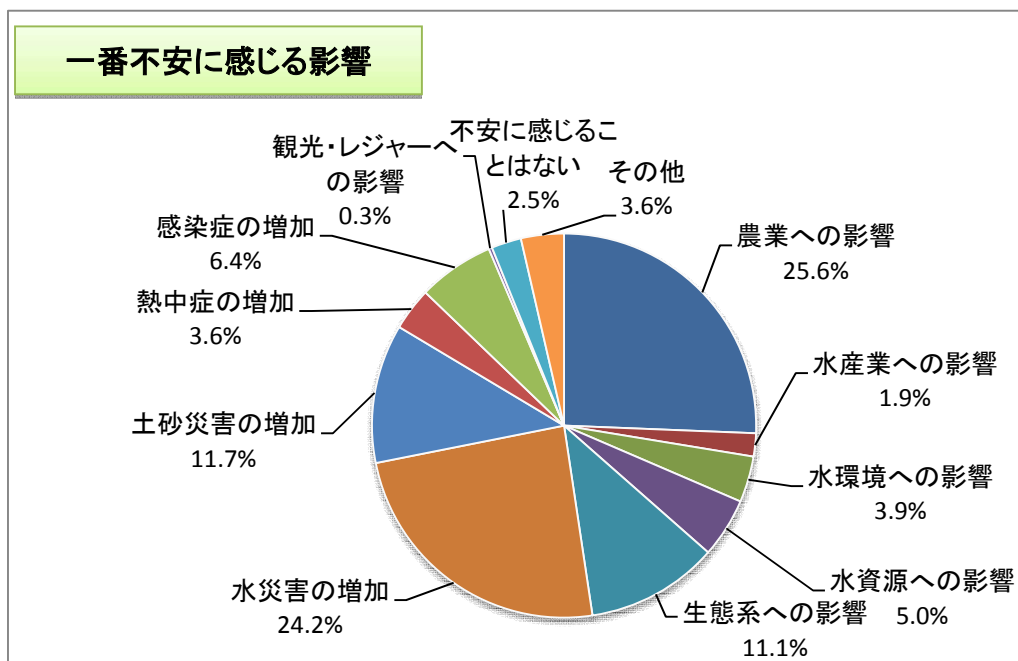
【問2】 問1で1「既に影響が現れている」と回答した人にお伺いします。どのような事象から地球温暖化に伴う影響(気候変動等)が既に現れていると思われましたか。(回答チェックはいくつでも可n=335)

項目	人数(人)	割合(%)
ゲリラ豪雨、洪水	286	85.4%
気温・海水温上昇、猛暑日	294	87.8%
台風、竜巻	221	66.0%
作物、生物分布の変化	151	45.1%
四季の期間の変化	184	54.9%
氷河・氷山の減少、海面上昇	207	61.8%
干ばつ・渇水	134	40.0%
その他	16	4.8%



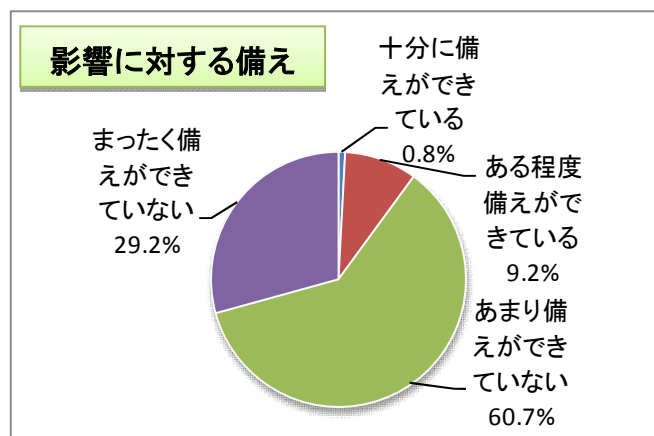
【問3】 地球温暖化に伴う影響（気候変動等）が、私たちの生活に及ぼす影響であなたが一番不安に感じる影響は何ですか。（回答チェックは1つだけ。 n=359）

項目	人数(人)	割合(%)
農業への影響（農作物の収穫量や品質の低下等）	92	25.6%
水産業への影響（漁獲量等の減少）	7	1.9%
水環境への影響（琵琶湖の水質の悪化等）	14	3.9%
水資源への影響（渇水、水不足等）	18	5.0%
生態系への影響（野生生物の生息地等）	40	11.1%
水災害の増加（豪雨による洪水等）	87	24.2%
土砂災害の増加（豪雨による土砂崩れ等）	42	11.7%
熱中症の増加	13	3.6%
感染症の増加（デング熱等）	23	6.4%
観光・レジャーへの影響（積雪量の変化等）	1	0.3%
不安に感じることはない	9	2.5%
その他	13	3.6%
合計	359	100.0%



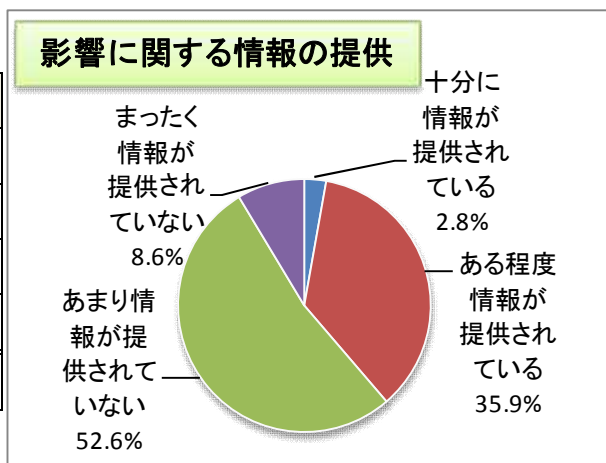
【問4】 問3で選んだあなたが一番不安に感じる地球温暖化に伴う影響（気候変動等）に対して、社会で十分な備えができていると思いますか。（回答チェックは1つだけ。 n=359）

項目	人数(人)	割合(%)
十分に備えができている	3	0.8%
ある程度備えができている	33	9.2%
あまり備えができている	218	60.7%
まったく備えができている	105	29.2%
合計	359	100.0%



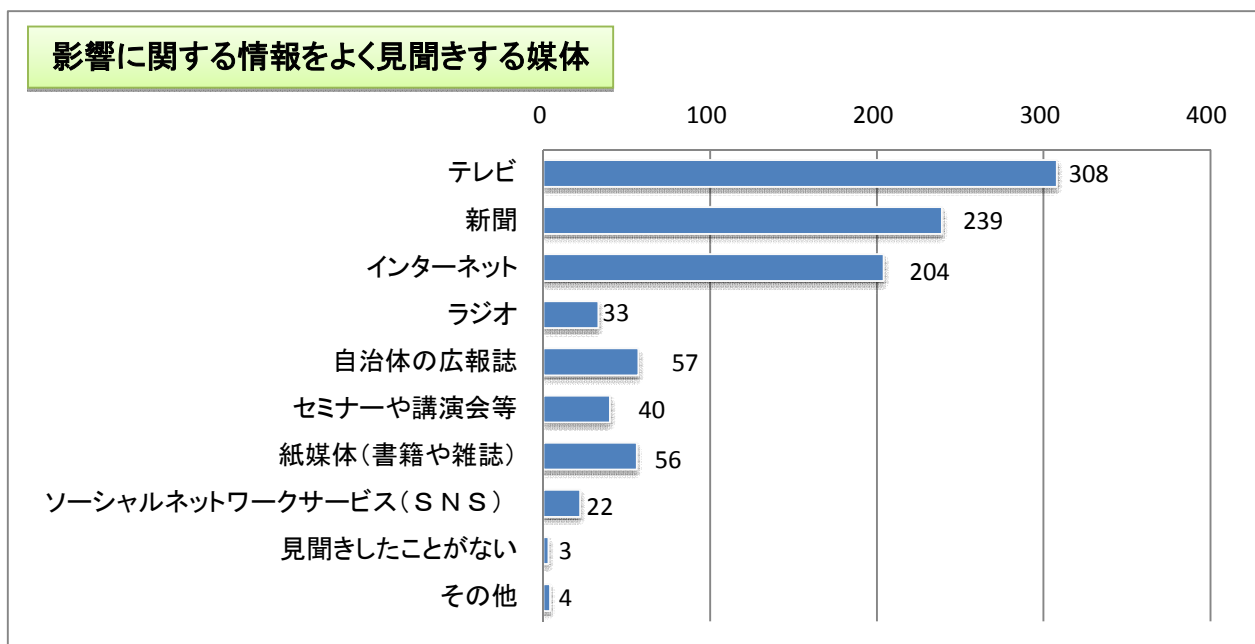
【問5】 地球温暖化に伴う影響(気候変動等)に関する情報の提供について、十分に提供されていると思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
十分に情報が提供されている	10	2.8%
ある程度情報が提供されている	129	35.9%
あまり情報が提供されていない	189	52.6%
まったく情報が提供されていない	31	8.6%
合計	359	100.0%



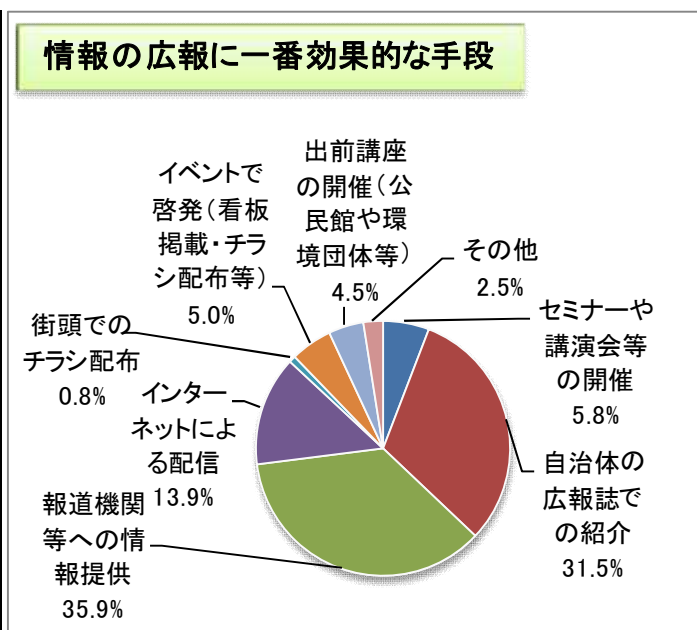
【問6】 地球温暖化に伴う影響(気候変動等)に関する情報について、どの媒体からの情報をよく見聞きますか。(回答チェックはいくつでも可 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
テレビ	308	85.8%
新聞	239	66.6%
インターネット	204	56.8%
ラジオ	33	9.2%
自治体の広報誌	57	15.9%
セミナーや講演会等	40	11.1%
紙媒体(書籍や雑誌)	56	15.6%
ソーシャルネットワークサービス(SNS)	22	6.1%
見聞きしたことがない	3	0.8%
その他	4	1.1%



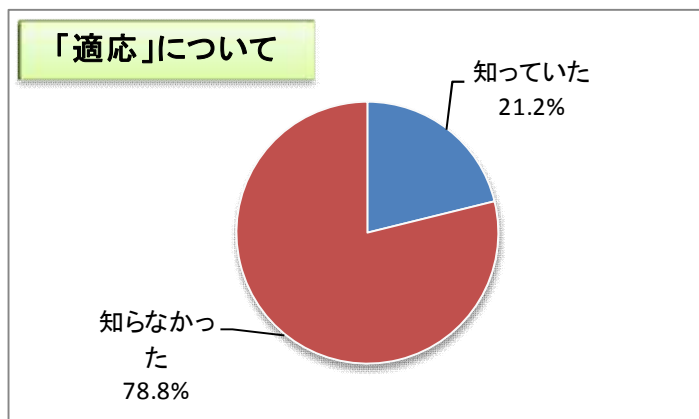
【問7】 県が、地球温暖化に伴う影響(気候変動等)に関する情報を広報するために一番効果的だと思われる手段は何ですか。(回答チェックは1つだけ。 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
セミナーや講演会等の開催	21	5.8%
自治体の広報誌での紹介	113	31.5%
報道機関等への情報提供	129	35.9%
インターネットによる配信	50	13.9%
街頭でのチラシ配布	3	0.8%
イベントで啓発(看板掲載・チラシ配布等)	18	5.0%
出前講座の開催(公民館や環境団体等)	16	4.5%
その他	9	2.5%
合計	359	100.0%



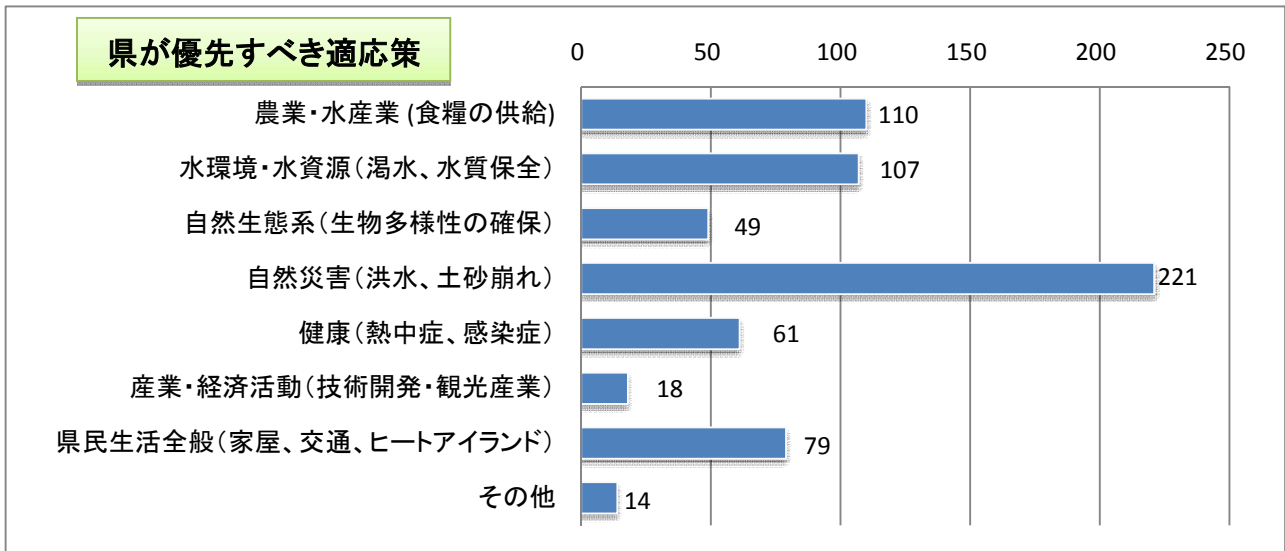
【問8】 地球温暖化の対策として、温暖化による影響や被害を軽減することを「適応」と言いますが、あなたはこの「適応」という言葉を知っていましたか。(回答チェックは1つだけ。 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
知っていた	76	21.2%
知らなかった	283	78.8%
合計	359	100.0%



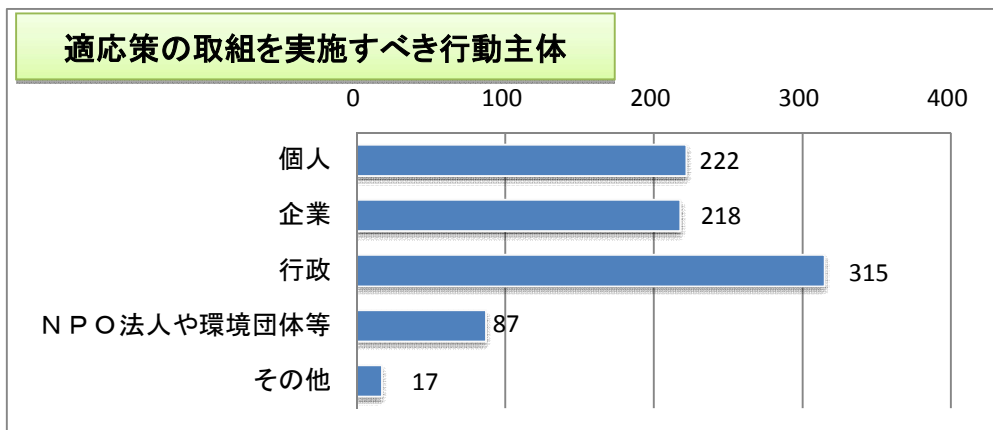
【問9】 地球温暖化に伴う影響(気候変動等)に対処するために県が優先的に進めていくべき適応策はどの分野だと考えますか。(回答チェックは2つまで可 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
農業・水産業(食糧の供給)	110	30.6%
水環境・水資源(湧水、水質保全)	107	29.8%
自然生態系(生物多様性の確保)	49	13.6%
自然災害(洪水、土砂崩れ)	221	61.6%
健康(熱中症、感染症)	61	17.0%
産業・経済活動(技術開発・観光産業)	18	5.0%
県民生活全般(家屋、交通、ヒートアイランド)	79	22.0%
その他	14	3.9%



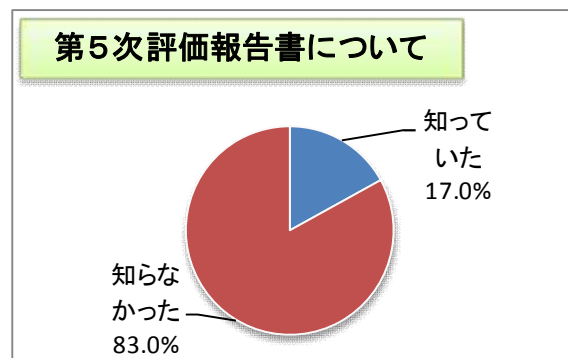
【問 10】 地球温暖化に伴う影響(気候変動等)に対処するために、どの主体が行動(適応策の取組等を実施)しなければいけないと思いますか。(回答チェックはいくつでも可 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
個人	222	61.8%
企業	218	60.7%
行政	315	87.7%
NPO法人や環境団体等	87	24.2%
その他	17	4.7%



【問 11】 国際的な専門家で構成される「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」という国際組織が、昨年度、地球温暖化に関する様々な情報をまとめた「第5次評価報告書」を公表しましたが、あなたは、このことを知っていますか。(回答チェックは1つだけ。 n=359)

項目	人数(人)	割合(%)
知っていた	61	17.0%
知らなかった	298	83.0%
合計	359	100.0%



【問12】 その他、気候変動の影響やそれに対する適応策に関してご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

～主な意見～

＜気候変動の影響についての意見＞

- 50年ほど前と比べると積雪量も大変少なくなり、その点では住みやすくなっていますが、その分、水不足も起こってきています。季節の進み具合が早くなっていると感じることが多いことと年によって季節の期間が大変違っていることが懸念している大きな点です。
- 滋賀県の広報で、詳しく気候変動の影響が身近なものだということをわかるようにのせてほしいです。
- 滋賀県において気候変動の影響がどのように出てきているかを具体的に示してほしい。農作物の収穫量やエリアの変化、琵琶湖の環境変化、天候・気温の変化など。
- 自然災害発生時、想定以上とか想定外とよく言われますが、想定し対応してほしいです。過去に起こっていないから、これからもおこらないというのは、これからはやめてほしいと思います。
- 近年、竜巻、爆弾低気圧、秋や春が短い（自分で感じている）等、子供の頃（50年前）体験しなかった事象が起きており、環境問題に真摯に取り組む必要性を感じている。
- 最近では想定外という言葉で表現される災害が多いように思います。今までの基準や考えを取り除くところから始めないといけないのではないかと思います。
- 愛知川沿いで命の危険を感じる豪雨が2年前から中流域でも起きるようになった。
- 今年は毛虫の発生が多く、また庭の花木の咲く時期が異常であり、これも気候変動の影響かと思っている。
- やはり食料となる農作物が大事であり、それで生計を立てている人たちを守るのも大事だと思います。今の段階でわかっている情報を逐一各個人に知らせるべきだと思います。また、いろんな意見を取り入れる為に広報紙等で意見を募集するのが良いと思います。高齢者の方はネットとかあまりされないと思うので自治会などが良いと思います。そして、必ず結果も報告して頂くようお願いしたいです。
- 現在、日本には四季が変化していると感じます。
春の暖かい日に桜が咲かず、雪の降る中で咲くこと。暑さが熱帯化しており、雨も通り雨でなくゲリラ豪雨になること。秋が短く、冬が長く、今までにない豪雪が市街地で起こり交通機関がマヒしている。

<適応策について>

- 地球温暖化に伴う影響（気候変動等）については、個人個人がその重要性をよく認識しないといけ
ないが、行政もこれまで以上に適応策にしっかり取り組んでいただきたい。
- 地球環境の変動は、全人類が直面する問題だという認識を持った上で、レジリエンスを持った社会
を構築するよう、自治会レベルからの取組を始めるべきだと思う。
- 自然や生物と関わる職業、例えば農業、林業、漁業に従事する人は、長年の経験体験で、科学的根
拠は別にして自然や生物の行動でその年の気候（雪、台風が多いとか）を予測されるが、的中する
ことも多く、事前に適応策を講じる際には、意見集約することが大切。
- 自然災害は別として、海水の温度が上昇すればそれに適応した魚が現れるし、気候が暑くなればそ
れに適した作物の栽培が可能（マンゴが千葉県でも栽培が可能）になるのであまり問題が無い。洪
水等は危険区域を調査しそれに対する対策を講ずれば被害は防げる・小さくできると思う。
- 健康面で、過去に経験することの少なかった感染症に対する防御策を図る必要を感じる。健康な生
活は万人が望むもので、気候変動による亜熱帯や熱帯性の感染症に対する知識の少なさに不安を感
じる。
海外旅行などにより、現地より持ち込まれ発症した感染症よりも、日本に定着しつつある感染症に
ついて対応が急がれる。
幸い滋賀県よりも低緯度に位置する県が多くあるので、発症が確認された感染症について重点的に
予防策や感染時の症状、対応方法について周知する必要があるのではないかと。医師並びに医療関係
者への周知だけでは、爆発的な発症を防ぐことは困難ではないかと。
- 起きてしまったからでは遅いので、まずは命や健康に関わる部分から対策を検討していくことは必
要だと思う。
- 異常気象で、さまざまな弊害が出てきているように思うが、異常気象そのものを人間がコントロ
ールすることはできないので、その現状から、その道の有識者が適切な情報（対処法）を判断して、
特に弱者（老人や子供、また病人等）に健康や生活を守るための情報を発信するようにして欲しい。
- ここ数年、スコールのような雨を経験することや、ニュースをきくにつけ、今までの基準の雨対策
では対応できないと感じる。保水力のあるアスファルトの道路に変えたり、屋上緑化を推進したり、
下水道を取り換えるときにもっと直径の太いものに変えていく等、少しずつ、しかしより多くの雨
が降っても耐性のある街づくりが重要だと考えます。
- 今までの経験をしたことがない現象が起こってくる。これの対応は、同じ現象が地球上で起こっ
ているので、その情報を日本の地域だけでなく、世界の国から取って対応策を考えておくことが大切。
- 地球温暖化の適応についての各種事業について、行政・各種団体（自治会・土地改良区・森林組合
等）・個人が行う、適応事業に何らかの補助を行い、すべての県民・国民が共同作業としての取組
が必要である。